

元気のぞる福祉のまちに

# ばんからごうし

第22号  
2003年  
3月発行

編集・発行

社会福祉法人 京都市中京区社会福祉協議会

〒604-8316 京都市中京区大宮通御池下る三坊大宮町121-2 TEL.075-822-1011 FAX.075-822-1829  
http://www.mediawars.ne.jp/fukusi06



## 福祉活動、ボランティア活動を高め、中京区を明るく住みよい福祉のまちに！

### 地域福祉活動計画案を披露する 区民フォーラム2開かれる

中京区社協ではこれからの地域福祉活動のあり方を、中・長期的（平成一五～一九年度）に考える地域福祉活動計画づくりに取り組んでいます。この度その案がまとまりました。二月二三日、京都アスニーで行われた区民フォーラム2は、この計画案を区民のみなさんに披露し、論議、広く意見をお聴きすること（公聴会）を目的に開かれ、約一六〇人が集まりました。

#### ■基調報告「地域福祉活動計画とは」

フォーラムではまず井岡勉氏（地域福祉活動計画策定副委員長 同志社大学教授）から「地域福祉活動計画の意義」と題する基調報告が行われました。ご存知のように中京区は六五才以上人口が二〇%以上を占め高齢化が進行する一方、マンションの増加による最近転入された住民（新住民）とともに子どもの数も増えていきます。また高い自営業者率を示しながらも、急速に雇用者が増加するなど、住民が非常に多様化していることが特徴です。こうしたなかで従来型パターンの福祉活動では社会の状況変化に対応することはできません。また一時的なアイデアや単発的取り組みでも地域福祉の継続的な発展は望めません。そのため中・長期的な見通しのもと、区の現状を分析し将来予測をたて、目標を定めて活動を方向づけていく必要があるのです。テーマは「住み慣れた地域で安心して暮らし続ける」。住民の参加と自治を進めるために各種団体や機関とともにどうやって条件づくりを図るか。その具体的なプランが地域福祉活動計画なのです。

続いて活動計画の具体的中身について社協事務局から資料に添って報告がありました。地域福祉活動の推進主体は



学区や区の社協、ボランティアグループ、障害のある人などの当事者グループに民生児童委員や老人福祉員などをはじめ、地域の各種自治組織、区役所、福祉事務所、保健所などですが、区民の生活に欠かせない学校、商店街、スーパー、寺院、病院、薬局、企業などを含めた幅広い施設、機関、団体を視野に入れていきます。そして何よりの主人公が区民一人ひとりなのです。

## ■シンポジウム「多様な人でできずく中京区民の福祉のまちづくり」

二部のシンポジウムでは藤井伸生氏（策定作業委員長・華頂短期大学助教授）のコーディネートのもと、植野裕代氏（地域女性連合会会長）、木村寿夫氏（朱雀二条商店街振興組合副理事長）、小林敬子氏（有償ボランティアグループ・ふれあいほうむ）どうぞ“代表”からそれぞれ報告がありました。

女性会は、子育て相談から黒豆の炊き方まで、気軽に電話で話し相手になれる「温もりの電話」となりのおばちゃん復活の活動が共感をよんでいます。

また商店街からは、他区の事例もおりませながら、徹底した地域密着型商店街を追求する区内の取り組みが紹介されました。福祉のまちづくりのため商店街にできることは何か。生活者にやさしい商店街の模索が始まろうとしています。

有償ボランティアグループ「ふれあいほうむ」どうぞ“一”からは介護保険の対象にならないサービス・援助や、（例えば子育て中で一時的に助けが欲しい若いお母さんなど）、少しの助け合いで日々の生活をしやすくすることを目的にした会員制の互助団体の活動が紹介されました。

最後に大西早百合氏（策定作業委員、府立医大助教授）からは三氏の報告を受けて、「まちは歴史、風土とそして人の営みによってできる」こと、ここで暮らし、住み続けられる福祉のまちをつくることは、区民の多様な活動、人が築くさまざまなまちづくりの営みが必要、というまとめの発言がありました。

当日、会場では地域福祉活動計画に対する区民からのご意見・ご提言を募り、また本計画のキャッチフレーズの投票が行われました。

## 区民フォーラム2参加者約160名のうち43名からアンケート用紙を提出していただきました。（抜粋）

- 計画案が先走りしている。マンションが増えたこととこの方々との交流ができていないのではないかなと思う。地域集合住宅を対象としたアンケートが必要ではないか。
- ◆今回初めて区内の新住民の存在について取り上げることができました。活動推進の中で新旧住民の交流を行い、次の計画策定に活かしていきたいと考えます。
- それぞれのグループが交流、理解する方法が必要ではないか。そのため交流イベントの開催など考えられるのではないか。
- ◆本計画ではさまざまなグループ、機関との交流や意見交換の場を目指しています。また、グループに所属していない人も参加できるイベントの開催も打ち出しています。さまざまな機関や団体と協力して具体的推進に努力していきたいと考えます。
- 年齢の高い方の参加が多いですね。若い人を育てていくということも必要でしょう。
- 地域内に男性の定年になって家に居られる方が多く（元気）居られます。そのような方々にもっとボランティアとして参画していただくよう募れないでしょうか。
- ◆関係者とともに、活動の場や人づくりを促進していきたいと考えます。また、区社協会務運営の強化や学区社協の基盤強化の推進を図り活動を充実させる中で、担い手づくりをめざしていきます。
- 一般に考えられているのは一部の人達がしていることで区民がどのような役割をすればよいか？どこで話し合いの場を持っているか等知らない人がほとんどだと思う。
- ◆基本目標1、基本目標2、基本目標3でさまざまな人との出会いの場、さまざまなところと連携した情報の普及、身近なレベルでの情報提供を強化していこうと考えています。
- 本当に動けなくなった方にどうしてほしいか聞いても入れてあげない施設がない。何年も待っているというのではこれも意味がない。
- ◆本計画では、行政がつくる計画への提言も盛り込んでおり、その中で区内の現状にみあったさまざまな施設やサービスの整備の必要性をうたっています。
- 中京の地域が住みやすくあたたかいまちになるように何かと計画を立てておられるのには感動です。私自身今すぐ何ともいえませんが、高齢者、子どもたちのために住み良い中京となるようお願いします。
- もっと中京区社協をアピールしてほしい。
- ◆今後、さまざまな機関・団体や区民のみなさんとともに誰もが住みやすいあたたかい中京のまちをつくっていききたいと思えます。中京区社協についての広報は、生活関連施設などとの連携を図りながら従来のやり方に工夫を重ねるとともに、インターネットホームページを全面改訂し、こまめに更新を図りたいと考えています。

### 【中京区地域福祉活動計画のキャッチフレーズ投票】

①いっしょにやりまひよ、やさしいまちづくり	20	②きょう・あすのわたし・あなたが主人公	3
③いきいきかがやくみんなの人生	6	④かがやきプラン	6
⑤その他 ・思いやり声かけ上手な町づくり ・チャレンジ、福祉向上中京区 ・地域に密着われらの福祉			

# 平成15年度事業にかかわる賛助会員加入のお願い

日頃は中京区ならびに各学区社会福祉協議会（社協）活動へのご協力、まことにありがとうございます。

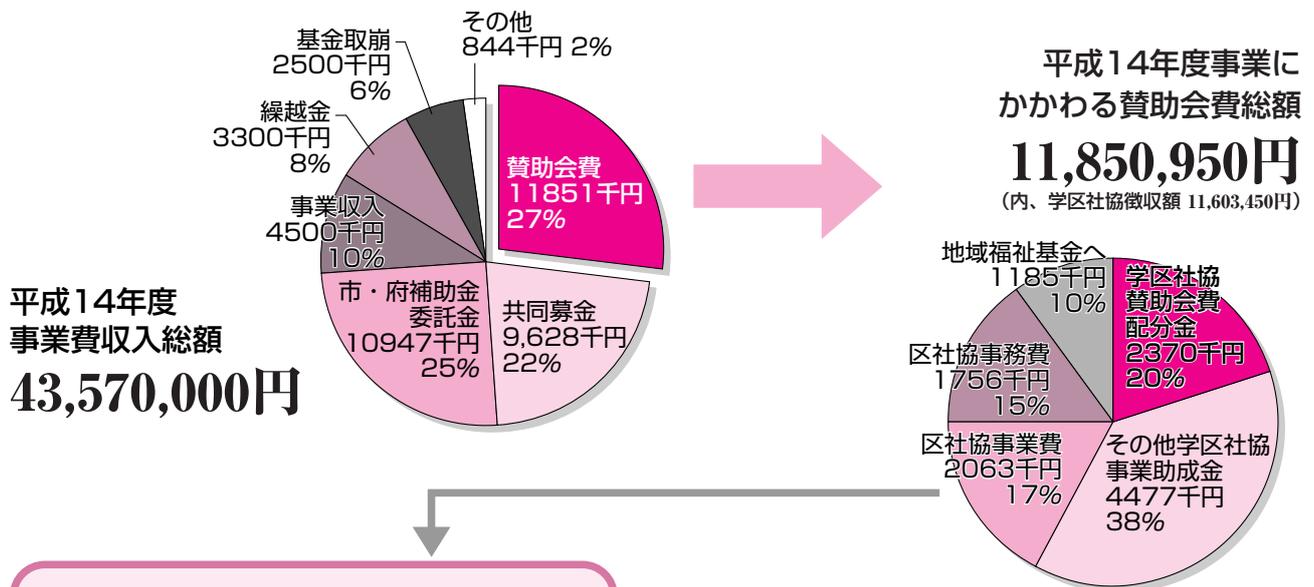
すでに前回のべんがらごうしや市民しんぶん中京区版でもお知らせしましたとおり、1月下旬から各自治会のご協力のもとで、各学区社協を通じて賛助会員加入のお願いを行っているところです。（学区によって時期が異なります。）

各学区からお寄せいただいた賛助会費の20%はその学区に配分しています。また、学区社協の事業に対する助成として、賛助会費総額の40%弱に相当する額が賛助会費から助成されています。

## 賛助会員の会費

個人（世帯）年1口 **500円**  
法人（企業）年1口 **1,000円**

（個人・法人とも口数に制限はありません）



## 区社協の活動

- 各学区社協への研修  
学区社協活動交流会議の開催
- 各種調査・研究活動  
中京区民生活実態調査  
中京区地域福祉活動計画の策定
- 区民への広報活動  
区民フォーラムの開催
- 関係機関とのネットワークと当事者団体との連携  
高齢者の関係団体とのネットワーク促進  
精神保健関係団体とのネットワーク促進  
子育て関係団体とのネットワークの促進  
障害者団体への支援連携
- 区内関係者への支援  
備品・会議室貸出

## 学区社協の活動

- 在宅福祉サービス  
茶話会・昼食会活動  
寝具クリーニングサービス  
配食サービス  
高齢者・障害のある人などの交流活動
- 各種講座・勉強会  
介護講座  
交通安全教室  
子育て講演会
- 広報活動  
各学区での広報誌や各種講座等のちらしの作成

趣旨・目的に賛同していただき、ご支援のほどよろしく申し上げます。

## お知らせ

## みやこだ！法人認可だ！チャリティ狂言

4月25日(金) 午後6時開場・午後7時開演 京都コンサートホール 小ホール

- 料金 3,000円（当日券 3,500円／障害者・学生 2,000円）
- 主催 みやこだ！法人認可だ！チャリティ狂言実行委員会

【内容】第1部 挨拶・仲間の舞台 第2部 お話 「狂言ってどんなお芝居」 茂山千之丞  
狂言 棒 縛（ぼうしばり）  
濯ぎ川（すすぎがわ）

お問い合わせ 第2みやこ共同作業所 電話075-821-7701

# 市民参加型・体験イベント！

## ～みる・きく・しる・みんなで遊ぼう～

# 中京福祉まつり

中京のまちには、障害者団体やボランティアグループ、公的な団体も含めて多くの福祉団体があります。その多様な活動を区民のみなさんにお知らせし、気軽に交流してもらおうと、いま体験型の福祉イベントの準備が進んでいます。「～みる・きく・しる・みんなで遊ぼう～中京福祉まつり＝6月1日（日）元教業小学校にて開催予定＝」がそれ。それでは、その取り組みの様子をご紹介します。



## アイマスク、盲導犬、点字、車いす…なんでも体験してみよう！

このまつりのポイントは「参加型」。たとえば、アイマスクを使った視覚障害の擬似体験、盲導犬の実演、点字による名刺づくり体験、車いす体験、風船バレーや卓球バレーといった障害者スポーツなど、だれでも自由に体験できるコーナーの企画が進み、ステージでは聴覚障害者の方々による手話劇や要約筆記のボランティアサークルの活動も紹介される予定です。（各コ

ーナーを回るとスタンプラリーのお楽しみも待っています。）

さらに興味を引くのが舞台企画。「わたしの主張」は、日頃、福祉活動にかかわっているグループや個人の悩みや苦勞、うれしいこと、悲しいことなど、何でも自由に表現してもらおうという企画です。どんな発表が飛び出すやら、いまから楽しみです。

## プロセスを大切に、手づくりのまつり

ひとくちに「福祉」といっても、障害や対象とする年齢層などが違えば、抱える課題や悩みもさまざまですが、これまで団体間相互の交流は必ずしも活発ではありませんでした。しかし、2000年の介護保険のスタートに続き、今年4月からは障害者支援費制度が始まるなど、福祉をめぐる状況が大きく変化するなかで、各団体や個人の連携と情報の共有は欠かせませんし、なによりもこの地域に暮らす人びととの交流が求められています。

そこで出てきたのが「区民まつりの福祉版のような催しができないだろうか」という声でした。この提案を受けた中京区社会福祉協議会では、中京区民ふれあい事業実行委員会と共催で「中京福祉まつり」の実施を決定しました。そして昨年11月に区内の福祉団体や行政機関などによる準備会を結成。現在、二十数団体

が参加し、まつりの企画準備にあたっています。

準備を行っている舞台・参加体験・出店の各企画会議では、参加団体よりさまざまなアイデアが寄せられ、話し合いを通じて着々とまつりの中身が練り上げられています。

また、「今までそれぞれ名前は知っていたけど、このまつりの会議を通じて、はじめて他の団体の活動が詳しくわかるようになった」との声も寄せられており、ともにまつりをつくりあげていくなかで、さらなる参加団体同士の相互理解と交流が期待されるそうです。



## Toshiもライブで参加！（京都市人権啓発事業として同時開催）

まつり当日は、ヤキソバなどおなじみの模擬店も多数出店予定。

さらに、福祉現場でのコンサートに力を入れている人気ミュージシャンToshiによるライブや元ハワイ州副知事のメイジー・ヒロノ女史による福祉の海外事情

のお話もあり！子育てグループなどの協力により乳幼児対象のプレイルームも設けられますので、小さなお子さん連れのお父さんやお母さんもぜひどうぞ。実行委員会では「区民のみなさんに気軽に『福祉』にふれてもらう機会にしよう！」と、張り切っています。

## 運営ボランティア募集！

中京福祉まつりでは、運営を手伝ってくださるボランティアを募集しています。お問い合わせは、中京区社会福祉協議会（TEL. 822-1011）まで